

10 中学校から高等学校への連携を図る

こんな実践

N中学校では、地域と関わる中から見出した様々な課題を探究する学習を積み重ねています。O高校では、N中学校と連携し、中学での学びを生かした課題探究の授業を行っています。中・高を通じて探究的な学習を積み重ね、自分の生き方を考えていったP生の学びの事例です。

(1) 中学校におけるP生の学び

実践学校 N中学校

実践学年 中学校1～3年

単元・題材名 「地域のお膝元プロジェクト」

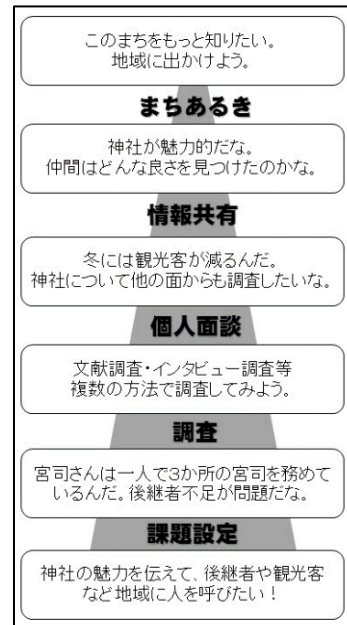
○1年時、「地域のよさを見つけよう」をテーマに、仲間と共に、地域の様々な場所に出かけて行ったP生。その中で、神社の宮司さんから、神社の壮大な歴史や、一人で3か所の神主を務めていることなどを教えてもらいました。



帰校後、教師は、一人一人が見つけた地域の良さを友と共有する場を設定しました。P生は、友の発表を聞き、地域には、神社以外にも文化・自然等の多様な良さがあり、観光客の多い地域であるということや、季節によって観光客数が変動するという課題もあることを知りました。

地域のよさや課題を知ったP生は、神社に特に興味を持ちました。そして、神社についてより深く知るため、再び宮司さんを訪ね、そこで宮司さんから語られた、「伝統を守っていきたいが、神職は人手が足りない。」という言葉に心揺さぶられました。「神社の魅力をもっと多くの人に伝えられれば、後継者も増えていくし、地域に多くの観光客を呼ぶことにもつながるのではないだろうか。でも、そのためにはどうすればいいのだろうか？」観光客数の変動の問題とも関連させながら課題意識を醸成したP生は、個人課題を“地域の寺社とわたしたちの未来”と設定し、追究を始めました。

中学3年間を通じて神社について追究したP生は、神社の魅力や地域の観光客について調査をしたり、神社の祭りに参加したりして、宮司さんや祭りに携わる人の姿に触れていきました。そして、課題を更新しながら追究を深め、神社の魅力を生かした地方創生の可能性についてまとめました。発表会の最後には、「これからは自分にできることを見つけて、実行していきたい。」と語り、高校へと進学しました。



(2) 高等学校におけるP生の学び

実践学校 ○高等学校

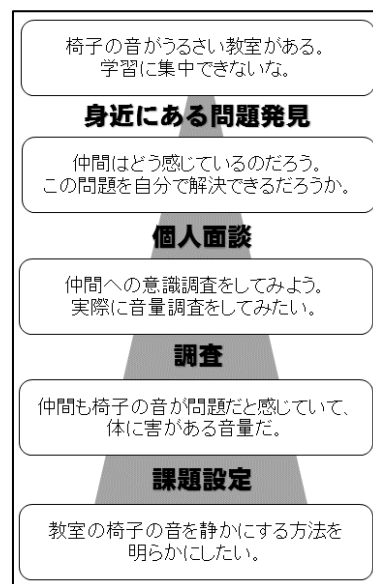
実践学年 高校1学年

単元・題材名 「問題発見 個人テーマレポート」

○P生が進学した○高校では、探究のプロセスを大切にしたい学習を行っています。P生は、1年時、「問題発見」の授業において、「高校に入学してからずっと、ある教室では椅子を引きずる音がうるさいと感じていた。」と、教師に語りました。教師はP生のこの気づきをもとに対話を重ね、P生の課題意識を高めていきました。P生は個人課題を“教室の椅子を静かにする方法とは？”，と設定し、中学校での総合的な学習の時間での経験を振り返りながら、その解決に向けて収集が可能な情報、整理・分析の具体的な方法の見通しや有効な考察の観点等を明らかにしていきました。

そして、P生は仮説実証のため、教室の観察、他の場所との比較実験、生徒の意識調査等を繰り返し行い、数値化された客観的な情報を収集し、それらを整理したり分析したりしていきました。

P生は、中学校・高校での探究のプロセスを積み重ねることを通して、「色々なことに興味や関心を持ち、どんな小さなことでも生活をよりよくするため行動に移せる自分でありたい。」と自身の在り方に目を向け始めました。P生にとって探究的な学びは、自分の生活や社会を多面的・多角的に見つめ、課題を発見・設定し、より良い生活を創造していくための一歩を踏み出す力となっています。



ここがポイント

- 探究のプロセスを繰り返すことが、自分の生活をより良くするための課題発見力につながります。
- 探究的な学習を進めていくうえでポイントになるのが、「課題の設定」です。子供が目標を実現するにふさわしい探究課題が設定できるように指導・助言することが大切です。

まとめ

身近な気づきを基に課題を設定し、探究のプロセスを積み重ねることを通して、P生は、自分自身の生き方やあり方を考えながら学ぶことができました。学ぶことと生きることが結びついた姿です。